6. 行動･環境文化学系

行動･環境文化学系を構成するのは，心理学･言語学･社会学･地理学の 4 つの専修である。この 4 専修はそれぞれの専修の説明に述べられているように，いずれも固有の研究分野と研究方法をもち，確固とした学問的伝統を有している。しかしその一方で，人間の心理･言語活動･社会活動･空間活動に対する行動科学的アプローチを共有している。行動･環境文化学系は，このような 4 つの個別分野の特性を保持しつつ，共通の要素を軸として 1 つの系を構成することになったものである。

本系においては，心理学･言語学･社会学･地理学の各分野がそれぞれ独立しており，本系に分属を希望する学生諸君は，いずれの専修に進むのかを十分に考えておくことが望ましい。とりわけ本系を構成する各専修の場合，研究を進めていくためにはもとより，授業の内容を十分に理解するためにも，基礎的な技法･技術を修得することが不可欠である。各専修は 1 回生または 2 回生から，それぞれの分野の入門的講義や演習･実習･講読の必修科目を提供している。行動･環境文化学系に分属予定の学生諸君は，これらのどの科目を履修するかを考えておくことが必要である。

いずれの専修を選ぶにしても，まず必要なのは語学などの基礎的学力であり，1･2 回生のうちにこれらの勉強を進め，単位を修得しておくべきである。各専修の専門的教育はその基礎があってはじめて有効となる。

心理学･言語学･社会学･地理学はそれぞれ研究室を構成し，3 回生以降における専修分属の単位となっている。それぞれの専修における教育を担当し，卒業論文の作成指導をするのはこれらの研究室である。各研究室には，担当の教員の下に多くの大学院生が所属して研究を進めている。必要があれば上級生および大学院生からの助言も得られよう。

■ 心理学専修

教　授	蘆　田　　宏	視覚科学　(感覚情報処理･視覚認知)
教　授	黒　島　妃　香	比較認知科学　(動物，知性，感情，進化)
准教授	森　口　佑　介	発達科学　(認知発達，脳発達，自己制御，想像力，経験)
講　師	Duncan A. Wilson	比較心理学・霊長類学

〔著書･論文〕

蘆田「PsychoPy でつくる心理学実験」(監訳、共著) 朝倉書店，2020；蘆田「運動の知覚」(吉澤達也編 感覚知覚の心理学 第 7 章) 朝倉書店，2023

黒島「Does own experience affect perception of others' actions in capuchin monkeys (Cebus apella)? *Anim Cogn* (2014, 共著)；「誤解だらけの”イヌの気持ち」(4 章) 財界展望新社，2015；「Experience matters: Dogs (Canis familiaris) infer physical properties of objects from movement clues.」(*Behav Processes*) (2017, 共著).

森口「自分をコントロールする力　非認知スキルの心理学」講談社新書, 2019；「おさなごころを科学する：進化する乳幼児観」新曜社，2014

Wilson 「Exploring attentional bias towards threatening faces in chimpanzees using the dot probe task.」 *PLoS ONE* (2018, 共著)

人の心のはたらきについては，古くよりさまざまな観点から考究されてきているが，心理学は，行動観察を基礎に，心のはたらきを実証的に研究する科学である。心理学は広範な応用分野をもつが，本専修は，基礎心理学，実験心理学，および基礎行動学の 3 分野で構成され，認知を中心とする基礎的領域を扱っている。これらの 3 分野は相互に密接な関連をもち，一体となって心理学の研究･教育に当たる方針を貫いている。主な研究内容として，巨視的に個体を単位として，その発達や系統発生，個体間相互作用などを対象とする研究，感覚，知覚，記憶，思考，情意などの機能のそれぞれについて，より緻密に分析するとともに，生涯におけるその変化について調べる研究，神経科学や情報工学，分子生物学など精神活動の解明に関わる隣接諸科学との相互作用を通じて，認知機能を解明しようとする研究，などが挙げられる。百年余り前に哲学から分かれて，独自の道を歩み始めた心理学の研究･教育に携わる本専修は，文学部の諸専修のなかでやや異色の趣きがある。観察材料や測定器具を配し，ハトや新世界ザルを擁した実験室は，一見，文学部らしからぬ様相を呈している。これは本専修が実験心理学を根幹とする基礎部門を主要な研究課題としていることに依る。こうした性質上，臨床心理学，精神分析学等を本専修に求めても，それらに応える十全の準備はない。しかし，本専修は京都大学「こころの科学ユニット」(https://www.kokoro-unit.kyoto-u.ac.jp/)に参加しており，教育学部，総合人間学部で開講されている数多くの科目が相互的に履修可能である。これらの多様な科目を履修し視野を広げることは大いに推奨される。

他の科学と同様に，心理学においても基本的に理論と事実の整合性が要請されることはいうまでもない。理論は事実による裏づけを要し，事実は理論に収斂される。専修生はそうした整合性をたかめるための基礎的な訓練を通して，心理学的なものの見方を習得するはずである。そのためには本をよく読み，よく考え，さらによく観察する態度が必須のものである。学部学生の指導には，演習にかなりの重点がおかれ，各自が問題の所在を原典によって探究することが要求される。したがって専修分属に先立ち，語学力をたかめ，さらに柔軟な思考力を涵養しておくことが要請される。あわせて，第 2 年次に履修できる授業(文学部学生便覧参照)，特に講義Ⅰ (実験心理学概論)，実習Ⅱ A, B (心理学基礎実験)，実習Ⅱ A, B (統計基礎実習)を履修しておくことが，カリキュラム上からも強く望まれる。このほか学部での授業には知覚，学習，思考，発達，社会などの各領域にわたる講義や研究，観察･調査のデータを解析し，集約する心理学的方法を習得する授業が提供されている。また，大学院では，各自のテーマをさらに発展させ，その営為を通して母なる哲学に改めて問いかける幅の広さを期待したい。

本専修では，他学部との連携により公認心理師受験に必要な科目を修得できるようにしている。詳しくは京都大学公認心理師情報ページ(https://www.educ.kyoto-u.ac.jp/kounin-cp)を参照されたい。なお，文学研究科では大学院修士課程レベルの科目は提供されないので，受験資格の取得には，卒業後に他の研究科への進学あるいは特定の機関での実務が必要となる。

本専修では読書と思索のみに耽る，いわゆる「安楽椅子の心理学」の志向は歓迎し難い。卒業論文には，手足を動かしてデータを得，解析し，事実の背後にひそむ力動的な機制を描き出す洞察が期待される。そうした労を惜しむ学生には本専修はそぐわない。しかし，人や動物の多様な活動にみられる自然のあり方に関心があれば，心理学専修はやり甲斐のある研究テーマに満ちている。

■ 言語学専修

教　授　　定　延　利　之　　記述～理論言語学，日本語
教　授　　千　田　俊太郎　　記述言語学，パプア諸語，朝鮮語，エスペラント
准教授　　キャット，アダム　　印欧諸語歴史言語学，古期インド･イラン諸語，トカラ語
講　師　　大　竹　昌　巳　　文献言語学，契丹語

〔著書･論文〕 定延利之『認知言語論』(大修館 2000)，同『ささやく恋人，りきむレポーター』(岩波書店 2005)，同『煩悩の文法』(筑摩書房 2008)，同『コミュニケーションへの言語的接近』(ひつじ書房 2016)，同『文節の文法』(大修館書店 2019)，同『コミュニケーションと言語におけるキャラ』(三省堂 2020).

千田俊太郎「日本語の動詞語幹とアクセントに關する覺え書き」『ありあけ：熊本大学言語学論集』19, 2020, 同「ドム語の「一」を表はす形式とその用法について――同一性，唯一性，非現實性，個々別々性，不定性，特定性――」『言語記述論集』12, 2020, Kial multas adjektivoj en Esperanto? Komparo kun la korea, la japana, Dom, Tokpisino kaj aliaj lingvoj. *Esperantologio / Esperanto Studies* 3(11), 22–54, 2022.

キャット，アダム　The Derivational Histories of Avestan *aēsma-* 'firewood' and Vedic *idhmá-* 'id.' In Stephanie Jamison, H. Craig Melchert, and Brent Vine (eds.), *Proceedings of the 25th Annual UCLA Indo-European Conference*, 39–48. Bremen: Hempen, 2014. 同 Tocharian B *ly(ī)ptsentar-* A New Class VIII Present. *Tocharian and Indo-European Studies* 17: 11–27, 2016. 同 Vedic *vrādh-* and Avestan *uruuād-/uruuāz-*. In Adam Alvah Catt, Ronald I. Kim, and Brent Vine (eds.), *QAZZU warrai: Anatolian and Indo-European Studies in Honor of Kazuhiko Yoshida*, 21–33. Ann Arbor: Beech Stave, 2019.

大竹昌巳 "Reconstructing the Khitan vowel system and vowel spelling rule through the Khitan Small Script", *Acta Orientalia Academiae Scientiarum Hungaricae* 70(2), 2017, 同「契丹小字文献における「母音間の g」」『日本モンゴル学会紀要』46, 2016，同「契丹小字文献における母音の長さの書き分け」『言語研究』148, 2015.

言語学専修は，1908 年に京都大学文学部に言語学の講座が設置されたことに遡る。初代の教授は『広辞苑』の編者として知られる新村出であった。開設以来，本専修では個々の言語を調査･分析し記述する研究や，文献を読み解き，言語の変化や文献以前の言語について推定する研究において多くの貢献をしてきている。またそこで得られる知見を一般化した，一般言語学の分野でも重要な役割を果たしてきた。それに加えて昨今では，人間の言語が機能する仕組みについての理論的な研究の面でも多くの人材を輩出している。

本専修では，創設以来文献言語学と歴史言語学の分野において着実な研究成果を上げてきている。希少な文献を読み解き内容を明らかにすることは，人類の歴史の解明につながることはもとより，言語の変化を知るうえでも重要な作業である。昨今は正規の発掘だけでなく，世界で盛んに行われる開発工事の結果として新しい文字資料が発見されてきており，このような新出資料の解明もまた言語学に携わる者の重要な仕事となっている。また情報化･国際化の波により世界が大きく変貌する中にあって，本専修に対する一般社会や学界の期待は，ますます増大しつつある。地球上で話されている数千の言語のうちのかなりのものが，国際化の中で話者の数が減り死語となる危機に瀕している。それらを体系的に記述する作業は緊急の課題である。それはまた，地上で失われつつある「種」の保存にも比較できる，現在に生きる我々の使命であるが，言語学の訓練を受けた研究者だけが十全に行い得る仕事である。さらに，人間が言葉を生成しコミュニケーションを行う仕組みを解明する研究は，情報工学や大脳生理学などの分野を巻き込んだ真に学際的な研究分野になっており，言語の本質についての研究の蓄積と言語分析のノウハウを有する言語学者の果たす役割は非常に大きい。

このように言語学が扱う領域は極めて広いが，カリキュラムの編成にあたっては専任の教員および非常勤の教員を適切に配して，音声学，記述言語学，理論言語学，歴史･比較言語学，社会言語学など現代言語学のほとんどの領域をカバー出来るように配慮している。また卒業に必要な科目として，東洋西洋諸語 16 単位を課しているが，これは，将来どの言語を専門にするにしても，多くの言語の特徴を理解したうえで言語研究を進めていくことが必要であるからである。そうして得られた知識を背景にして卒業論文を準備することになる。

卒業論文のテーマは日本語を対象にした理論的研究をはじめとして，歴史言語学，音声学，フィールド言語学など言語学の多様な分野に及んでいる。現在話されているか否かを問わず，希少な個別言語の分析がテーマとして選ばれることが比較的多いことも本学の言語学専修の伝統であろう。

研究室の雰囲気は大変明るく，学部学生も自由に出入りして院生たちと交流している。院生の指導による学部学生のための研究会や読書会も盛んに行われている。年 3 回行われる言語学懇話会では，各方面で活躍する卒業生や院生の研究成果に親しく接することができ，その後で行われる懇親会も含めて学部学生も積極的に参加している。研究室は研究面での交流を進めるとともに，人間的な友好を深める場でもあるよう努めている。

■ 社会学専修

教　授　　太郎丸　　博　　社会階層論，数理社会学，社会学方法論
教　授　　岸　　政　彦　　沖縄、生活史、質的調査方法論
准教授　　田　中　紀　行　　社会学史，社会学理論，知識社会学
准教授　　Stéphane Heim　　経済社会学，産業社会学，組織論
准教授　　丸　山　里　美　　ジェンダー研究，福祉社会学
(兼)准教授　安　里　和　晃　　移民研究，アジア研究，社会福祉論

〔著書･論文〕　太郎丸『人文･社会科学のカテゴリカル･データ解析入門』ナカニシヤ出版，2005,『フリー ターとニートの社会学』世界思想社，2006,『講座社会学 13 階層』東京大学出版会，2008 (共著)，若年非正規雇用の社会学』大阪大学出版会，2009.

岸『同化と他者化――戦後沖縄の本土就職者たち』ナカニシヤ出版、2013 年,『断片的なものの社会学』朝日出版社、2015 年,『マンゴーと手榴弾――生活史の理論』勁草書房、2018 年,石岡丈昇・丸山里美共著　『質的社会調査の方法――他者の合理性の理解社会学』有斐閣、2016 年,北田暁大・筒井淳也・稲葉振一郎共著　『社会学はどこから来てどこへ行くのか』有斐閣、2018 年,打越正行・上原健太郎・上間陽子共著　『地元を生きる――沖縄的共同性の社会学』ナカニシヤ出版、2020 年,岸政彦編著　『東京の生活史』筑摩書房、2021 年,岸政彦編著　『生活史論集』ナカニシヤ出版、2022 年,石原昌家・岸政彦監修　沖縄タイムス社編　『沖縄の生活史』みすず書房、2023 年

田中『近代日本文化論 4　知識人』岩波書店，1999 (共著),『歴史社会学とマックス･ヴェーバー (上)』理想社，2003 (共著),『モダニティの変容と公共圏』京都大学学術出版会，2013 (共編著) ,『W. シュルフター著作集 5 マックス・ヴェーバーの比較宗教社会学』風行社，　2018(監訳).

Heim “Economic Sociology and the Theory of the Firm: Lessons from the “Toyota Momentum” in the History of Capitalism”, *Kyoto Journal of Sociology*, Vol. 24, pp. 83-93, 2016, “Biopolitics and bureaucracy. The tragedy in three acts of the decay of Japanese national universities”, *Savoir/agir*, Vol. 37, No.3, pp. 107-113, 2016

丸山『女性ホームレスとして生きる――貧困と排除の社会学』世界思想社, 2013, 『質的社会調査の方法――他者の合理性の理解社会学』有斐閣, 2016(共著), 『貧困問題の新地平――〈もやい〉の相談活動の軌跡』旬報社, 2018(編著), *Living on the Streets in Japan: Homeless Women Break their Silence*, Trans Pacific Press, 2019

安里『労働鎖国ニッポンの崩壊』ダイヤモンド社，2011(編著), “Nurses from Abroad and the Formation of a Dual Labor Market in Japan”*Southeast Asian Studies*, Vol. 49, No.4, : 642-669,2012(共著),『親密圏の労働と国際移動』京都大学出版会，2018(編著)。

社会学専修は社会学と社会人間学，比較文化行動学および比較社会学の各分野から構成されている。比較社会学は,現在立命館大学の筒井淳也教授が客員教授として文化社会学を担当している。学部教育は社会学･社会人間学･比較文化行動学の各分野で実施され，相互に緊密に結びついて社会学専修のカリキュラムを構成している。また，大学院との共通講義を学ぶことができる。

社会学専修の研究･教育の根幹は，社会学理論の習得におかれている。したがって学生は社会学史ならびに社会学諸理論の研究を通じて，社会学の基本的な考え方を身につけることが要請される。そのうえで特に力を入れているのが，具体的なデータに基づく社会と社会生活の実証的･批判的分析である。社会学分野では歴史資料を駆使した近代社会や家族の生成過程の分析，社会人間学分野ではカルチュラル･スタディーズの手法を用いた現代社会の矛盾の解明及び数理モデル，計量的手法を用いた階層･格差の分析，比較文化行動学分野においてはフィールドワークやディープインタビューの手法を取り入れたコミュニティの実証研究を特色としている。授業は文学部だけでなく，京都大学で社会学を研究する他学部･研究所に所属する多数の教員の協力によっても行われる。また毎年国内外の大学からも多彩な非常勤講師を招いている。年度によってテーマや講師の顔ぶれは交替するが，社会調査法，福祉，メディア，医療，国際移動，地域社会，家族，現代社会理論などの個別領域の研究が提供されている。

社会学を選択する学生には，海外の文献を読みこなすのに十分な語学力と，それを厳密に理解し分析する理論的能力が要求される。さらに具体的な問題意識をもって文献を踏査し経験的な調査を自ら実行する能力も期待される。社会学的な考え方を学びながらあくまでも具体的なテーマに知的好奇心を失わない学生を歓迎する。

■ 地理学専修

教　授　　米　家　泰　作　　歴史地理学，東アジアの環境史

准教授　　埴　淵　知　哉　　都市地理学，健康地理学

講　師　　杉　江　あ　い　　社会地理学，開発地理学，地域研究（南アジア）

〔著書･論文〕

米家『中･近世山村の景観と構造』，校倉書房，2002. 『モダニティの歴史地理』(共訳)，古今書院，2005. 『森と火の環境史』，思文閣出版，2019.

埴淵『社会調査で描く日本の大都市』(編)，古今書院，2022. 『地域と統計―〈調査困難時代〉のインターネット調査』(共編)，ナカニシヤ出版，2018. 『社会関係資本の地域分析』(編)，ナカニシヤ出版，2018.

杉江 "Solidarity economy versus neoliberalism?: microcredit in rural Bangladesh." *Journal of Business and Economics* Vol. 10, No. 9, 2019. "Do 'Islamic norms' impede inclusive development of women?: A case study of Islamic education for women in rural Bangladesh," In Awaya, T. and Tomozawa, K. eds. *Inclusive Development in South Asia*, Routledge, 2023. 『カースト再考―バングラデシュにおけるヒンドゥーとムスリム』，名古屋大学出版会，2023.

当専修は，海外地域研究を含む地理学の幅広い領域の研究と教育の場です。そのため，上記の専任教員に加え，他部局の先生方には学内講師として，学外からも非常勤講師の先生方に授業を依頼し，多様な講義の提供に努めています。

地理学専修の研究や教育の特色の 1 つは，通時的な視点と相対比較の問題意識を重視することです。現在の場所･空間･環境にかかわる諸現象を捉える場合にも，その現在へと至る形成過程に目を向け，また，常に内外諸地域の比較研究を目指し，多面的かつ複合的に地域性を追求します。また，もう 1 つの特色は，「実習」の重視です。そのため，調査や論文作成に必要な，読図や GIS(地理情報システム)，フィールドワークの技術や調査方法を実際に体得する「地理学実習」を開講しています。この授業では，参加学生たちの合議で調査地を決め，全員の調査結果をまとめて『実習旅行報告書』として刊行しています。

地理学は，地球上での人間の営みや自然との関わりを，景観・環境・場所・地域・空間といった観点から，多様なスケールで捉える分野です。地理学らしい地図や空間への意識を持ちながら，関連する研究領域にも幅広く目を向け，論理的な思考力を養うことが期待されます。また，英語をはじめとする外国語の論文や資料も積極的に利用して，卒業研究に活かすことが望まれます。歴史地理学の分野では，古文書の解読が必要な場合もあります。

卒業論文の作成は，自分の関心に関連する研究論文を探して精読し，研究テーマや対象地域を決め，調査法や分析手法の選定，調査や分析の実施，図表の作成，論文執筆に至るという一連のプロセスを含みます。演習Ⅰ(3 回生)と演習Ⅱ(4 回生)は，こうした卒業論文の作成に向けたもので，個々の発表に基づく受講生同士の議論も，教員のアドバイスやサポートを受けることも大切な部分です。

なお，地理学専修は，1907 年の教室創設以来，さまざまな民族資料，古地図，アトラス，内外の地形図類などを収集してきました。これらは，総合博物館地理作業室，古地図･古地誌収蔵室，および地図･民族資料研究展示室に収蔵･管理されています。こうした資料も，研究と教育にさまざまな形で活用されています。

京都大学地理学教室所蔵の絵葉書コレクション　https://www.bun.kyoto-u.ac.jp/geography/postcard/